

「スリップ・ウェア」でピクニックセットを作る

コース・専攻：総合芸術コース 美術・工芸専攻

グループ名：スリップ工房

メンバー：伊藤裕美、京極こずえ、梶浦ひかる、川崎貴子

古宮博美、中川博司、吉田則子、高 慧香

スリップ・ウェアとは主に化粧土の重ね掛けによる技法であり、土に水を加えたクリーム状の泥（スリップ）で模様を描き、釉薬をかけて焼く陶器のことである。イギリスでは17～18世紀頃、高級食器が盛んに作られたが、スリップウェアはそれらとは正反対であり、偶然出来る形や色彩の面白さを取り入れた陶器である。私達は温かみのあるふだん使いの器の数々に惹かれ、グループを「スリップ工房」と名付け集まった。先輩方の画文集を読み、図書館の書物、新たに購入した本、さらにユーチューブなどいろいろな資料を集め手探り状態での作業の開始であった。

まずは化粧土を作り、次に色化粧土、模様を描くのにスポイト、いっちゃんスポイト、筆、鳥の羽根、楯状のものなどを用意し、10 cm平方の正方形の粘土の土台にスリップを掛け、数多くのテストピースを作った。しかし、素焼きや本焼き後、作品がそっていたり、割れていたり、色が思うように出せないなど困難の連続であった。その度に皆で話し合い、何度も試作を重ねた。二学期になり、赤松先生の「表現方法はどうする？」の質問に「ピクニックセット作り」と決定。各自が統一感を持ったピクニックセットを作り、粘土は白土、赤土、黒土を使用。作成方法は、ひも作り、たたら（厚み7～8ミリ）、ロクロで自由作陶とした。釉薬も個人の好みで石灰3号、白萩、黄瀬戸、伊羅保、飴釉などを使用し、その結果完成したのが写真の通りである。

最初、余裕を持って作陶していたが、それが仇となり、後半ぎりぎりまで作品作りに追われるという結末であったが、結果としてそれぞれ思いを込めた個性的な作品が作られ、大きな喜びとなった。更にテストピースとして作った作品の数々も改めて見ると不思議な魅力に満ちた美しいタイルとなり画文集の1ページに掲載することが出来た。

